

聴覚障害幼児の語彙について (その3)

岡田 明

本研究では、ろう児を対象としてかれらの語彙の諸側面のうち、主として熟知度の面から分析し言語指導における基礎データを得ることを研究目的とした。データは全国の聾学校の幼稚部生99人であった。母親に熟知性を測定してもらった。全データについて熟知度の平均は、20.8、S.D.は、23.9であった。熟知性の高いのをみると、人間語彙が比較的によく、品詞では名詞が多かった。熟知性の低い語彙は、1) 名詞化のおこなわれたもの 2) 生活範囲にないもの 3) 古語 4) 抽象度の高いもの 5) 使用頻度の少ないものがそうであった。

キーワード：語彙 熟知度 幼稚部生

I 目 的

ろう児は一般に、語彙やシンタックスの理解や表現に多くの問題をもっている。なかでも、単語は言語の単位であり、この研究は重要な意義をもつものと思われる。ここで語彙とは、ろう児が所有する単語の総体のことである。ここでは、ろう児が所有している語彙の熟知度を中心に報告することが研究課題となる。

本研究では、ろう児を対象としてかれらの語彙の諸側面のうち、主として熟知度の面から分析し言語指導における基礎データを得ることを研究の目的とする。

ろう幼児の語彙を測定するには連想法などによる方法も考えられるが、ここでは熟知度を測定する方法によりアプローチした。

本調査は悉皆調査を志向したものであり、熟知度の標準化をねらったものであるが、ここでは、そのデータの中からいくつかの資料をもとに報告することにす。

II 方 法

被験者は、北海道地区 札幌聾他6校、東北地区 青森聾他10校、関東地区 水戸聾他26校、北陸地区 新潟聾他4校、東海地区 名古屋聾他6校、近畿地区 福井聾他11校、中国地区 鳥取聾他7校、四国地区 徳島聾他5校、九州地区 福

岡聾他14校から選出した、合計99名である。

語彙調査にあたっては、阪本一郎著『教育基本語彙』の中からA1段階の語彙を2980語選定し、それを総計34ページに印刷したものをろう児の母親に配布した。母親は、家庭と学校で被験者に常に密接な接触をもっていたものだけを選定した。母親は、それぞれの単語の熟知度を2段階で評定することが要請された。そのときのインストラクションは次のとおりであった。『次には、たくさんの言葉が並んでおります。あなたご自分のお子様をよくごらんになって、お子様がつぎの言葉を知っていると思えば、それぞれの言葉の右に○を、知っていないと思えば、×をつけて下さい。例 あさひ ○、ひつじ ×…………読めたり書けたりしなくても、聞いてわかれば知っているとします。』

評定用紙は、昭和59年12月に配布し4月に回収した。

分析にあたっては、熟知性のみられた単語のみをとりあげ、なお被験児については、次の諸情報も得ている、(1)性別 (2)生活年齢 (3)教育年齢 (4)被障害度 (5)障害の種類 (6)社会性 (7)感情性 (8)その他

付帯調査の具体例を次にあげることにす。これは重判別関数を求めるときに基礎データになるものである。

《お子さまの調査》

お願い：被験児のようすなどについてつぎにご記入ください。

- ・被験児名 ()
- ・所 属 ()
- ・年 齢 () 歳 () 月
- ・性 別 男 () 女 ()
- ・被保育年数 () 年
- ・精神発達 ()
- ・人間関係 ()
- ・情緒の安定性 ()
- ・健康度 ()
- ・被障害の程度 ()
- ・障害の種類 ()
- ・記入者名 ()
- ・被験児との関係 ()

お願い：つぎの文章をよんで、はい・いいえのいずれかに○をつけてください。なお、空白の には気づいたことを書いて下さい。

V.

1. 遊びなどならあまり困らないが、少し小さいものは見えない。
(およそ視力が 0.04 以上で 0.3未満) は い いいえ
2. ごく大きいものしか見えない。(視力がおよそ 0.02 以上 0.04 以下) は い いいえ
3. まったく見えない。(視力が 0.02 以下) は い いいえ
4. その他の視覚障害について書いて下さい。

A.

1. 静かな所での話が聞きとりにくい。(聴力損失がおよそ20-40dB) は い いいえ
2. 普通の会話がやっと聞きとれる。(聴力損失40-60dB) は い いいえ
3. 大声でもよく聞きとれない。(聴力損失60-90dB) は い いいえ
4. かなり大きな音ならどうにか感じるができる。
(聴力損失90dB以上) は い いいえ

5. その他の聴力障害について書いて下さい。

M.

- | | | | |
|---------------------------|---|---|-----|
| 1. 両足であるける。 | は | い | いいえ |
| 2. ひとりで階段を上り下りできる。 | は | い | いいえ |
| 3. 片足でけんけんができる。 | は | い | いいえ |
| 4. 立ってられない。 | は | い | いいえ |
| 5. 足の動きに不自由を感じている。 | は | い | いいえ |
| 6. ものにぶらさがれる。 | は | い | いいえ |
| 7. 手の動きに不自由を感じている。 | は | い | いいえ |
| 8. その他の運動障害の程度について書いて下さい。 | | | |

E.

- | | | | |
|------------------------|---|---|-----|
| 1. 情緒的側面に障害がある。 | は | い | いいえ |
| 2. 不適応状態をひきおこしている。 | は | い | いいえ |
| 3. 幼稚園や学校へ行きたがらない。 | は | い | いいえ |
| 4. 口がきけるのに、口をきかない。 | は | い | いいえ |
| 5. 夜、よく眠らない。 | は | い | いいえ |
| 6. 頻尿である。 | は | い | いいえ |
| 7. 指しゃぶり、爪かみがある。 | は | い | いいえ |
| 8. その他の情緒障害があれば書いて下さい。 | | | |

S.

- | | | | |
|------------------------|---|---|-----|
| 1. ことばのリズムに障害がある。 | は | い | いいえ |
| 2. 一つ一つの音を正しく発音できない。 | は | い | いいえ |
| 3. ひどいどもりである。 | は | い | いいえ |
| 4. 話しことばに発達のおくれがある。 | は | い | いいえ |
| 5. 話し方に異常が感ぜられる。 | は | い | いいえ |
| 6. その他の言語障害について書いて下さい。 | | | |

I.

- 1. ごく簡単な文章も言えない。 は い いいえ
- 2. 色の名まえがわからない。 は い いいえ
- 3. 自分の名まえが言えない。 は い いいえ
- 4. 子どもがでてくるテレビでも見ようとしなない。 は い いいえ
- 5. いろいろな曜日のあることを知らない。 は い いいえ
- 6. ことばや数のひろい読みもできない。 は い いいえ
- 7. 自分の名まえが読めない。 は い いいえ
- 8. ことばをほとんど持っていない。 は い いいえ
- 9. 衣服の着脱や食事で介護を必要とする。 は い いいえ

10. およそのI.Q.はどれですか。○をつけて下さい。

- 20以下 ()
- 20~50 ()
- 50~70 ()
- 70~90 ()
- 100以上 ()

11. その他の精神発達について書いて下さい。

P.

- 1. 病気にかかりやすい。 は い いいえ
- 2. 病気のなおりがおそい。 は い いいえ
- 3. 頭痛、腹痛などの症状をよくうったえる。 は い いいえ
- 4. 慢性疾患がある。 は い いいえ
- 5. からだの発達が不良である。 は い いいえ
- 6. その他の健康状況について書いて下さい。

どうもありがとうございました。

III 結果と考察

全データについて、熟知度の平均値、標準偏差を求めた。M=20.796 S.D.=23.870であった。非常に、分散の大きいことがわかる。

99人中90人以上によって熟知性があると判定された単語は表1のとおりである。ほとんどが名詞であった。

阪本一郎の分類によると人間語彙が7単語、自

然語彙が6単語、生活語彙が4単語、属性語彙が3単語であった。社会語彙や文化語彙は皆無であった。品詞別にみると名詞が19、動詞が1、感動詞が1である。

Table 1. A1 で90以上の熟知性のあった単語

あお	あか
あかちゃん	あたま
あめ	ありがとう
いす	イチゴ
イヌ	ウマ
きいろ	くち
くつ	こがす
マップ	て
バナナ	パン
ミカン	みみ
リング	

次に阪本の語彙分類をあげることにする。

1. 語彙の分類体系

a 人間語彙……直接に人間そのものに関して表現しようとする語彙。

- a1 呼称……人間を区別する呼称。オトウサン, オバサン, オトコ, コドモなど。
- a2 身体・衛生……身体の名称(動物の身体を含まず), 状態・医薬品など。アタマ, セナカ, ナミダ, クスリなど。
- a3 行動……人間の行動および肉体の働き。アルク, ハナス, 消化など。
- a4 心理……人間の精神現象。オクビョウ, カナシムなど。

b 生活語彙……人間の生活に関して表現しようとする語彙。

- b1 飲食……飲食物の名称。ゴハン, お茶など。
- b2 服飾……衣服および装身具の名称。キモノ, エリ, ユビワなど。
- b3 住居……住居および家の部分の名称。イエ, ザシキ, タタミなど。
- b4 道具……日常生活に用いる普通の道具, 家具および材料。エンピツ, ツクエ, バケツ, クギなど。

c 自然語彙……自然に関して表現しようとする語彙。

- c1 自然現象……自然物および自然現象。ツキ, アメ, デンキ, 吹ク, ウマレルなど。
- c2 地表……地球の表面の名称。ヤマ, ハタケ, ウミ, アナなど。
- c3 動物……動物および動物に関して特に用いられるもの。ウマ, タテガミ, イナナクなど。
- c4 植物……植物および植物に関して特に用い

られるもの。サクラ, エダ, 咲ク, 枯レルなど。

c5 鉱物……加工されていない鉱物の名称。キン, ナマリ, イシコロなど。

c6 時……時や季節の用語。アサ, トシ, フユなど。

d 属性語彙……一般の事物現象の特性に関して表現しようとする語彙。

d1 数量……数量の単位および多少。ヒキ, イクツ, タクサンなど。

d2 形……事物の形。マルイ, トガル, オオキイなど。

d3 色……色彩。アカ, キイロイなど。

d4 位置・関係……方向を含む。イタダキ, ヒダリ, ヒガシ, トオイなど。

d5 性質……ヤワラカイ, アツイ, ヒロイ, チガウなど。

d6 状態……カタムク, マガルなど。

e 社会語彙……社会的にあるものに関して表現しようとする語彙。

e1 組織・政治……社会的組織および政治関係。クニ, ギンコウ, オサメルなど。

e2 職業・身分……ダイク, センチョウなど。

e3 交通……交通・通信関係。テイシャバ, キセン, ポスト, デンワなど。

e4 産業……商業関係を含む。コウバ, ゴフクヤ, ザイサンなど。

e5 軍事……軍事および兵器。センソウ, カイガン, グンカンなど。

f 文化語彙……特に子どもにとって文化的にあるものを表現しようとする語彙。

f1 社会文化……f2以下に含まれないもの。シンブン, トショカン, マツリなど。

f2 知識・教育……学習生活に関するものを含む。レキシ, コトバ, オサライ, エホンなど。

f3 芸術……オンガク, ショウカ, シャセイなど。

f4 機械……交通関係は「交通」に, 兵器は「軍事」に, 簡単な道具は「道具」に, それ以外のもの。ポウエンキョウ, ハタ(機), トケイなど。

f5 運動・遊戯……遊具などを含む。ヤキユウ, オニゴッコ, ニンギョウなど。

g 一般……上記に分類できないもの。

g1 一般・雑

Table 2. A1で80以上～89までの熟知性のあった単語

あいさつ	じどうしゃ
あし	ストーブ
あした	ゾウ
あつい	たべる
あぶない	てぶくろ
いちばん	でんわ
ウサギ	とり
ウシ	はさみ
え	ハンカチ
おいしい	ひとつ
おかあさん	ブタ
おとうさん	ふたつ
おなか	ふね
おばあさん	ぶらんこ
かお	ボール
かさ	みず
くつした	みどり
くる	めがね
さかな	もも
じてんしゃ	ゆき
よつつ	ライオン

80人以上89人によって熟知性があると判定された単語は表2のとおりである。

品詞別に分類すると、名詞39、形容詞3、動詞2であった。

0 評定であった単語は表3のとおりである。

表3の要因分析をすると次のようなことがわかる。

第1は名詞化がおこなわれると熟知性が低くなるということである。たとえば、「そだち」「ちぢみ」「つたえ」「しめし」などがそれである。

第2は生活にないものの熟知性が低い。「せんどろ」「たもと」「セルロイド」「どびん」「キセル」「たどん」「しぶ」「たわら」「トロッコ」「ぐんじん」

第3は古語の熟知性が低い。「ぜに」などがそれである。

第4は抽象度の高いものがわからない。「けんしょう」「けんとう」である。

第5は使用頻度の低いものがわからない。たとえば「いいつかる」「たいらかに」などである。

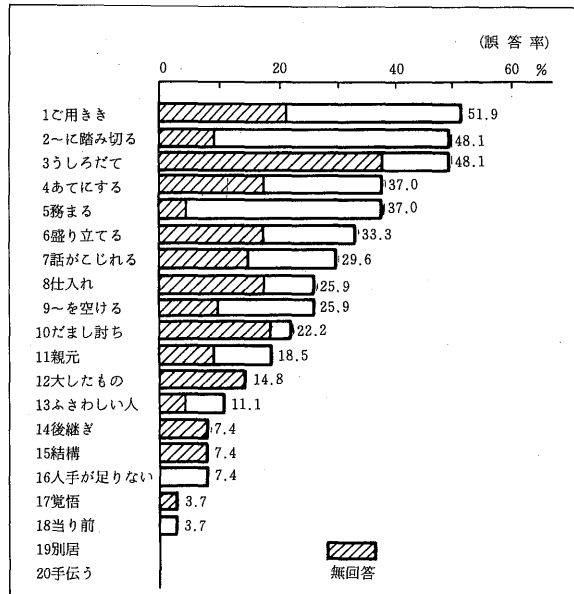
Table 3. A1で0 評定の単語

あきれる	おくらす	こごと	さらい
あやうい	おくり	こころもち	さらう
あらたまる	おさまる	こざる	しきりに
あわれむ	おしむ	こぞう	しげみ
いいつかる	おそれ	こづかいせん	しじゅう
いかり	おち	こめる	しば
いくさ	おちつける	こやす	しぶ
いさむ	おどし	さいく	しきり
いずみ	おどす	さいわい	しめし
いっそう	おもな	さえ	じゃらす
うかがい	おもみ	さえずり	しゅじん
うかる	およそ	さかり	しょうち
うけ	かがやかしい	しょうめん	しょげる
うすれる	かがやき	しらべ	じん
うたがう	かぎり	すする	すまう
うやまう	がくしゃ	ずるける	せいしつ
うらやむ	がくもん	せいよう	せがむ
おおよそ	かける	せく	ぜに
かみさん	かげる	ぜひ	ぜひとも
かげろう	かこい	せる	セルロイド
きざみ	かこみ	せわしい	せんどろ
きしょう	かすかに	せんどろ	そく
キセル	かすみ	そだち	そなわる

きど	かすり	そびえる	そびやかす
きどり	かたき	そまつ	そまる
きみがよ	かたみ	そめ	そる
きよくげい	かたむき	そろう	たいてい
くさみ	かなえる	たいらかに	たがいに
くさめ	かねる	たかまる	たかめる
くしん	かびる	ただ	ただす
くだす	かまう	たっしや	たとえる
くべる	かめい	たちまち	たっしや
くら	かよい	たづな	
くらし	からかさ	たどん	たに
くろい	かるわざ	たましい	ためし
くろう	かわき	たもと	たわら
くろずむ	がん	ちぢみ	ちぢれる
ぐんじん	かんじん	つじ	つたう
げい	かんずる	つたえ	つとまる
けぶる		つとめる	つるし
けわしい	さかん	でばり	てり
けんきゅう	さぐり	とがらかす	どびん
けんしょう	さげ	どもり	トロッコ
けんとう	さしず	なさる	なだかい
こう	さぞ	なびく	におわす
こうごう	さぞかし	にじむ	にせる
こがね	さと	になう	ぬし
ごく	さや		

以下 略

Table 4. 短文作成課題における語句別成績
ろう学生群（聾学校高等部専攻科）



NHK 放送文化調査研究所主任研究員、秋山隆志郎は、『おしん』をテーマにろう学生群に語彙の調査を実施した。その結果をみると、「ご用きき」の誤答率が高かった(表4)。

これなどはろう者特有の誤りのように思うが、本調査をまとめてみると、抽象度の高いものの熟知性が低いという結論になるように思われる。

付記：本研究はトヨタ財団の援助を受けたものであることを記し、当財団に謝意を表す。

文 献

- 1) 久保良英 (1928)：幼児の言語発達。創元社。
- 2) McCarthy, D.A. (1930)：The language development of the preschool child. J. Educ. Psycho. Val 2. No 1. p.p.6~10
- 3) 中野善達 (1970)：発達の障害と教育。児童心理学講座。金子書房。
- 4) 長野師範男子部附属小学校 (1944)：児童の語彙と国語指導。
- 5) 岡田 明 (代表) 放送による特殊教育振興委員会 (1984)：心身障害児教育と放送利用 第10集。日本放送教育協会。
- 6) 岡田 明, 都築繁幸 (1978)：ろう幼児の語彙の研究。心身障害学研究。2巻。
- 7) 岡田 明 (1985)：ろう幼児の語彙について(その3)。日本特殊教育学会発表論文集。
- 8) 阪本一郎 (1962)：子どもの語彙。16巻。12号。児童心理。金子書房。
- 9) 阪本一郎 (1984)：新教育基本語彙。学芸図書。
- 10) 佐藤昭一ら (1971)：ろう学校生徒の語彙と言語表現。東北大学教育学部紀要。
- 11) 牛島義友 (1943)：語彙頻度調査。
- 12) 住 宏平 (1959)：ろう・啞。児童心理学ハンドブック。金子書房。
- 13) 矢田部達郎 (1956)：新版。児童の言語。創元社。

Summary

A Study of the Vocabulary in Deaf Children (III)

Akira Okada

The aim of present study is to analyze the vocabulary of deaf children from the standpoints of numbers and structure of the vocabulary which they possess.

All 99 subjects were children in kindergarten attached to the school for deaf.

2,980 words presented to their mother. They were asked to judge whether children had familiarity to those words or not.

They possessed many vocabulary on man, life, nature, and quality. In the parts of speech, they possessed more noun, adjective and verb than the other parts of speech. In teaching, it would be important that we should begin with familiar words for the deaf.

Key word: vocabulary, familiarity, preschool children